

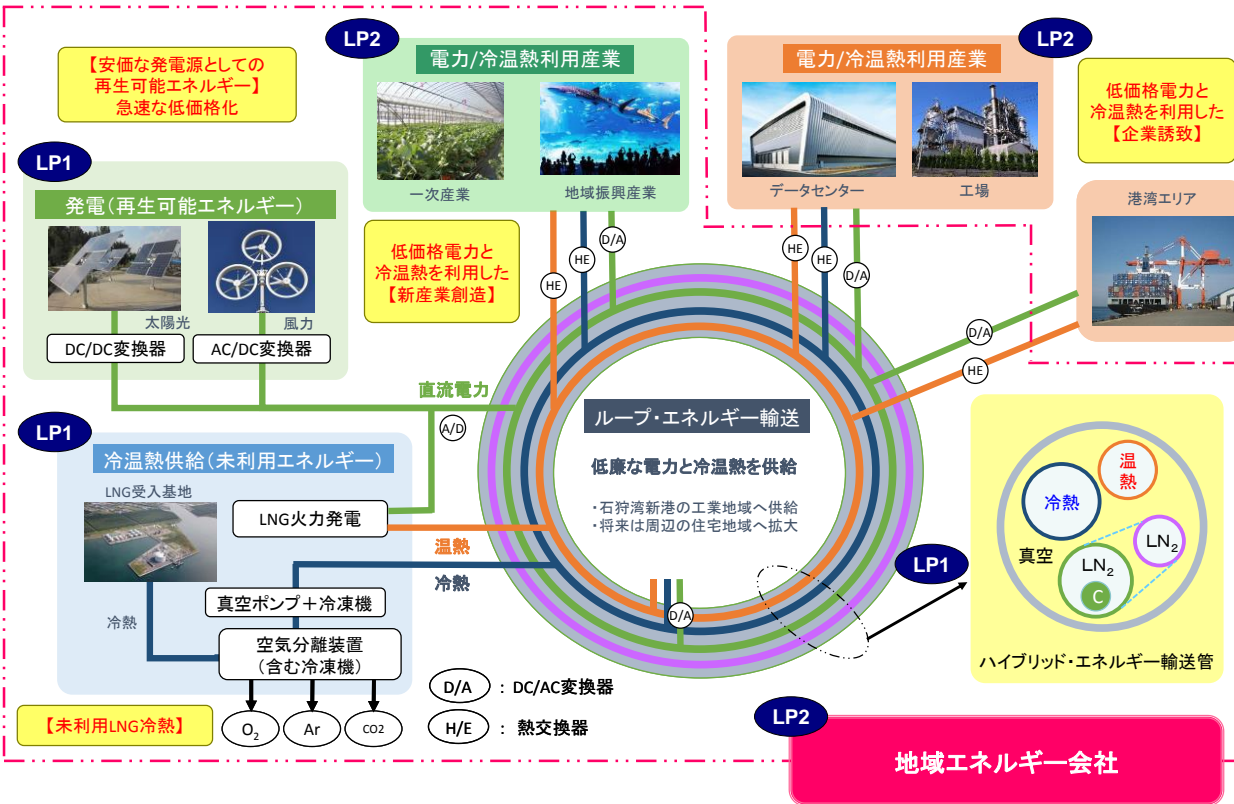
石狩湾新港地域におけるスマートエネルギー構想

～地産エネルギーを活用した低廉な電力、冷・温熱の供給～

代表提案者	地域低温熱エネルギー利用電力システム実用化研究会
協同提案者	石狩市、中部大学

- 石狩市において、風力や太陽光などの再生可能エネルギー、LNG基地から出る未利用冷温熱などの多様なエネルギー資源を有効に活用した高効率なエネルギー供給の仕組みを構築することで、環境に配慮した工業団地を実現する。
- また、そうした強みを活かし、石狩市への企業誘致と新産業創造による地域産業活性化および雇用創出につなげる。

高度なエネルギー供給インフラの構築による先駆的産業空間の提供を目指して
 ～道路等の社会インフラを活用したハイブリッド・エネルギー輸送管
 (高温超電導送配電、エネルギー版共同溝)による地域への供給の実現～



「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2015.10策定)

- 戦略目標「地域資源」からモノやしごとを創る
- 戦略目標「いろんな顔」をつくる

「石狩市地球温暖化対策推進計画」(2007.2策定)

- CO₂排出削減目標の設定
- 風力、太陽光等自然エネルギーの利用推進
- 循環型資源の利用促進と新エネ・省エネ技術開発の推進

- LP1:** 未利用エネルギーを活用した創エネと超電導技術を活用した送エネインフラの検討
- LP2:** 地域エネルギー会社の運営体制の確立と地域における企業誘致と新産業創造の検討

低廉な電力と冷・温熱の供給とCO2排出量の削減

地方創生 企業誘致

第5期石狩市総合計画の具現化

～30年後のまちの持続～
 「このまちに住み続けたい、住みたいと思うまち」であり続ける

創造 環境 絆

信濃おおまち Energy & Mobility 構想

～水が生まれ、水と創るまち～

代表提案者

長野県大町市

当市は国内随一の豊富な水資源を背景に、「創蓄省エネルギー」の実績・ポテンシャルを有している。

本構想においては、その地域特性と多分野に亘る先進技術を掛け合わせ、主に市内の中山間地域の生活支援、新たな観光資源の開発といった市としての課題解決にチャレンジしていくもの。

■課題解決のポイント

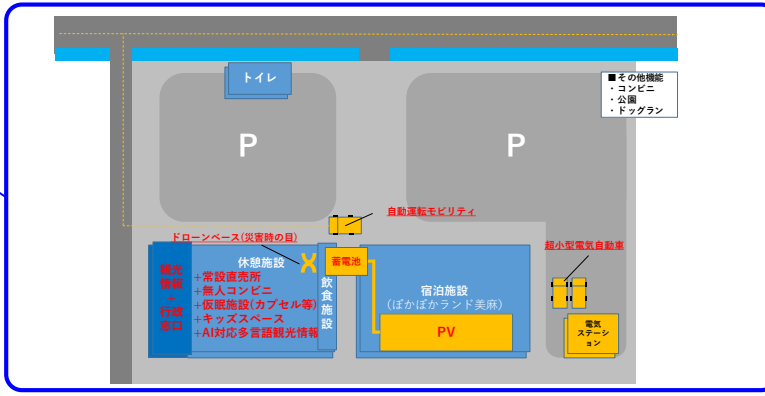
- ・ 地域を支える拠点の形成
- ・ 生活を支えるモビリティの強化

■課題解決のポイント

- ・ 他地域にない魅力的な観光プログラムの形成
- ・ ホスピタリティの高い観光客へのサービス機能の提供

LP1: 道の駅ぽかぽかランド美麻のスマート型小さな拠点化プロジェクト

- ・ 有効活用が課題となっている市所有の道の駅施設を有効活用し「地域を生活や非常時の際からも支えられる小さな拠点」、「観光振興拠点」の2つの視点からリノベーションしていく。



活用
電力供給 (自己託送)

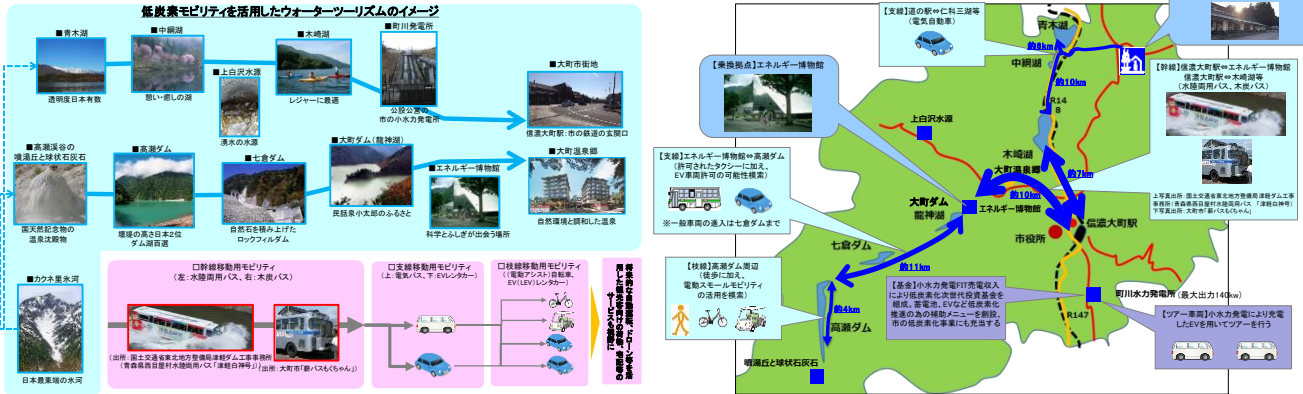
■地域の再エネ関連資源



市内太陽光発電技術実証実験場 (融雪技術)

LP2: 低炭素モビリティを活用した大町ウォーターツーリズム推進プロジェクト

- ・ 大町が誇る豊富な「水」をテーマにし、**クリーンでクリアな水を五感で感じられるスポット**を複数提案。それらを巡る「**ウォーターツーリズム**」を提唱。
低炭素モビリティを活用したウォーターツーリズムの具体的なコースイメージ



活用
電力供給

将来的な
展開も視野に
アグリゲイターサービスの
展開も視野に



市内水力発電施設 (町川発電所: 最大出力140kw)

FIT期間中は売電収入の一部を基金化しハード整備等に充当も(FIT終了後は直接利用、自己託送を検討)

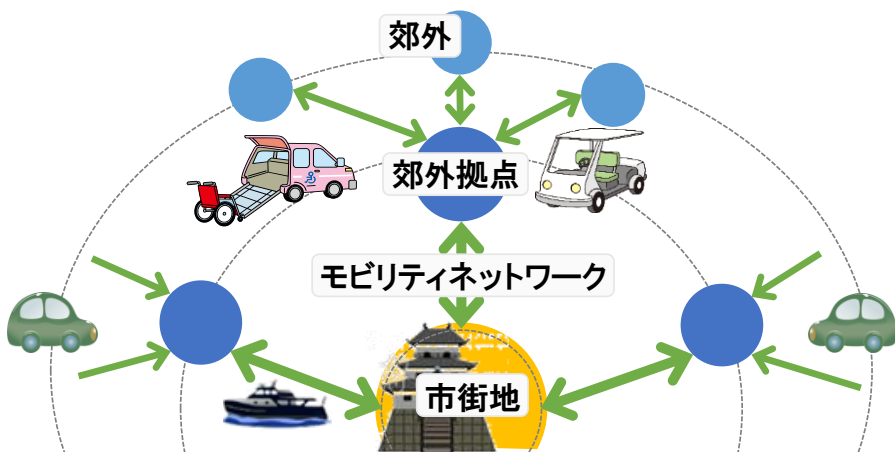
エコ×ユニバーサルな国際文化観光都市・松江の次世代型まちづくり構想

～ 誰もが楽しめる拠点づくりと低炭素型モビリティのネットワーク化を目指して ～

代表提案者	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会(地域30まつえ・NPO法人プロジェクトゆうあい・社会福祉法人みずうみ)
協同提案者	松江市

観光客の増加が加速する中、市街地では交通混雑の常態化や、人口減少に伴う空き家・空き地の増加が問題となっている。これを背景に、“エコ(創蓄省エネ, 低炭素)”及び“ユニバーサル”の視点から、観光行動の低炭素化と、誰もが思い思いに楽しめるおもてなしの観光地づくりを推進し、「国際文化観光都市・松江」の品格を高めていくための“道しるべ”として本構想を策定した。

▼リーディングプロジェクトと取組の方向性



LP1) 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備

→まち歩き観光を促進し、市街地内でのマイカー利用を抑制。

LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

→郊外にパーク&ライド拠点を整備し、市街地へのマイカー進入を抑制。

LP3) 「乗りたくなる」モビリティネットワークの構築

→市街地と郊外拠点を結ぶエコでユニバーサルなモビリティを導入。

エコ×ユニバーサルな国際文化観光都市・松江の
次世代型まちづくり構想の実現

松江駅前地区

LP1) 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備

- ①ユニバーサルな交通施設整備
- ②交通施設等への分散型エネルギー導入
- ③賑わいを生み出す駅前エリアの整備

- ・駅前から松江城に繋がる歩きやすい観光動線の確保
- ・道路の拡幅・歩道の整備やICT化推進によりユニバーサル化を支援等
- ・賑わい施設、公共空間、交通結節点などに環境負荷が少ない分散型エネルギーを導入(耐災害性も向上)等
- ・水都松江のウェルカムルートとなる松江駅から大橋川の水辺までの観光ルートづくりと面的な駅前再整備等

法吉地区

LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

- ①小さな拠点づくりの推進

- ・住民や観光客が容易に集える新たなコミュニティ施設の整備と小さな暮らしのスマート化
- ・ユニバーサル観光のツアーデスクや観光移動の休憩・中継拠点の整備

LP3) 「乗りたくなる」モビリティネットワークの構築

- ①次世代モビリティの導入
- ②福祉車両を活用したバリアフリー観光の交通整備

- ・団地内の移動を支援する電動小型低速モビリティ導入・自動運転化
- ・日常生活以外の観光利用などの新たな活用
- ・交通弱者の観光移動を支援する既存福祉車両の活用(中心部等からジオパーク等を含めた広域移動を支援)

乃木地区

LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

- ②公的遊休不動産活用による新たな拠点づくり

- ・ユニバーサル観光対応型の複合型賑わい拠点の整備
- ・広大な敷地を活用したPV駐車場整備等

LP3) 「乗りたくなる」モビリティネットワークの構築

- ①次世代モビリティの導入
- ③水都松江を代表するエコシップの開発・導入

- ・誰もが楽しめる回遊型電動小型低速モビリティの導入
- ・湖畔周辺観光モビリティの自動走行化
- ・デザイン性・利便性の高いバリアフリー対応型エコシップの開発
- ・湖上遊覧や観光拠点のネットワーク化

島根地区

LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

- ③バリアフリー観光拠点の整備

- ・既存施設を活用したバリアフリー型アクティビティ施設の整備
- ・既存施設やインフラのバリアフリー化

LP3) 「乗りたくなる」モビリティネットワークの構築

- ①次世代モビリティの導入
- ②福祉車両を活用したバリアフリー観光の交通整備

- ・拠点施設からジオパークを回遊する電動小型低速モビリティの導入
- ・ジオパーク内モビリティの自動走行化
- ・交通弱者の観光広域移動を支援する既存福祉車両の活用(中心部等からジオパーク等を含めた広域移動支援等)

安田の暮らしを支える 創・蓄・省エネルギーインフラ活用型まちづくり構想 ～暮らし・暮らし続ける安田の挑戦～

代表提案者

高知県安田町

本町は、南海トラフ巨大地震の対策、特に中山間地域での高齢化対策、地域内外の交通サービスの拡充という暮らしの安心・安全に関わる課題を抱えている。そこで、「集う」「住まう」「交わる」をキーワードにエネルギーインフラを活用した「まちづくり」の推進を図るとともに、「設備・施設そのもの」の創・蓄・省エネ化と「それらの運用方法（⇒機能分担・広域連携）」による省エネ化を図ることで、住民にとって暮らしよい環境整備を図ることを目的として本構想を策定した。

LP1 庁舎周辺のまち・空間の形成プロジェクト

①新庁舎の低炭素化

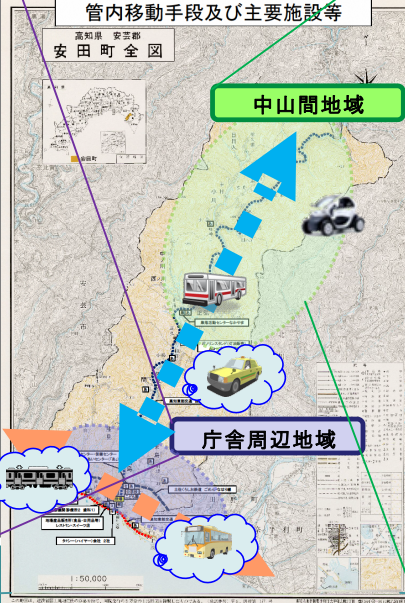
新庁舎の創蓄省化

- 住民の一時避難場所、災害対策本部として住民向けに業務継続が図れるよう、新庁舎に自家発電設備、備蓄倉庫、太陽光発電（独立運転可能型）、地中熱ヒートポンプ、蓄電池、省エネ型空調・給湯機器等を適正規模で導入する。
- これにより防災・低炭素化の両立を図る。

②まちなみ交流空間の創出及び連携

パブリックな空間創出

- 平常時においても、地域住民の交流の場となるよう、交流スペースの確保や各種NPO等の情報発信を行うほか、まちなみとの融和の視点で、景観が周辺施設と融和するように新規施設の建設時には配慮するよう指針を設ける。



LP2 中山間地域の生活インフラ整備プロジェクト

①行政主導の生活支援サービスのモビリティ低炭素化

低炭素車両のシェアリング

- 行政主導の「土佐の元気市」による移動販売や、おしゃべりバス、社会福祉協議会による配食サービス等は、今後も継続してサービスを維持する。
- 事業実施時の低炭素型の事業用車両・福祉車両等を町が保有し、事業者に貸出（シェアリング）を行うことで省エネの実現を図る。

②民間主導の生活支援サービスの情報の一元化・発信

広域連携による効率化・一元化

- 民間主導（JA、生協他）の配食サービス、移動販売をはじめ、日用品の配達/清掃・散髪等各種生活支援サービスの情報地域の自治体と連携して一元住民への情報提供を行う。
- サービスは現状の拠点起点から中長期的アトデア中心へと移行を図る。

LP3 地域公共交通サービスの展開プロジェクト

①低炭素モビリティの導入 既存モビリティのEV化

- 車両更新時期を迎える既存のスクールバスをEV化するなどして、モビリティの低炭素化の実現を図る。

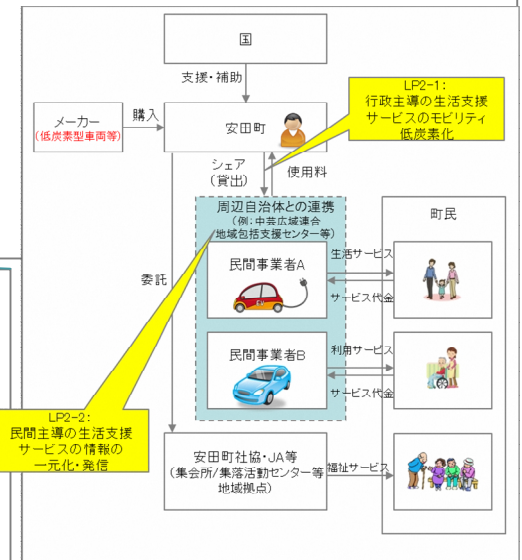
②二次交通網の充実 山間地向け小型電動車両の導入

- 幹線ルートより奥まった山間部の居住者向けの末端交通手段の提供として、小型電動車両導入等の検討を行う。

③地域特性及び主体を踏まえた公共交通連携サービスの展開

地域での公共交通ランドデザイン策定

- 民間交通事業者や関係部局との協議の上、スクールバスの一般混乗の拡大、貨客混載の実証、コミュニティバスの導入、将来的には中芸広域連合と連携した取組の実現など、地域全体での公共交通サービス展開のランドデザインの策定を図る。



福岡市地域・地産水素を活用した次世代地域モビリティー構想

～地元エネルギーの利活用による更なる“まち”の魅力向上を目指して～

代表提案者 住友商事九州株式会社

協同提案者 住友商事株式会社

下水処理場由来の地産水素を活用したモビリティを導入し、交通上の課題解決やまちの魅力を高める取組を推進する。

LP1: 交通弱者のサポート・移動性向上を実現する コミュニティ域内の周遊交通システムの構築

【目的】 市民生活の向上

- ✓ 誰もが安全で便利に移動できる交通環境づくり
- ✓ 災害にも対応できる交通体系の実現
- ✓ 域内の回遊性向上や他交通との結節の実現

【課題】 人口増加による自動車保有台数増(駐車場不足)、
➤ 域内施設への自動車移動によるCO2排出量増加。

【LP概要】

カート(水素or電動)の活用により、交通空白地や新興ニュータウンのような域内コミュニティでのコンパクトな移動手段を実現することで、域内住民の利便性向上・移動活性化を目指す。

シェアリング ⇒ 自動運転



地域由来の低炭素エネルギーの供給サービスと
利用アプリケーションを一体的に具現化することにより…

- ・地域課題の解決
- ・先進性を内外に示すことでまちの魅力向上を実現
- ・地元における新産業の創出



LP2: インバウンド客への水上観光サービスの提供

【目的】 インバウンド客への対応

- ✓ 海に恵まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- ✓ 手段としての移動だけでなく、“移動を楽しむ”
- ✓ 国内外からの広域的な人流・物流を支える交通

【課題】 インバウンドが団体ツアーから個人旅行客にシフトし、ニーズが多様化。インバウンド向けのエンターテインメントが不足。

【LP概要】

インバウンドの観光メニューの多様化を目的として水上モビリティーを活用。水素取り組みの先進性PRのため水素船を投入し、新たな観光の目玉コンテンツとして博多湾の夜景クルーズとの組み合わせ、またアトラクションの観点から水陸両用車を検討し、更なる観光活性化を図る。

LP3: 地域内外資源を活用した水素サプライチェーンの構築

【目的】 水素サプライチェーンの構築

- ✓ 九州やアジアを牽引する交流拠点都市
- ✓ 下水バイオガス水素の利用拡大



【LP概要】

LP1及びLP2の導入コンテンツのエネルギーとなる水素(特に低圧水素キャニスター)の供給体制を構築し、水素供給から各導入機器のオペレーションまでを一元的に管理することで域内での水素利用拡大、水素の地産地消実現を目指す。中長期的には水平展開として他地域への広域的な展開を図る。